広報 向日市

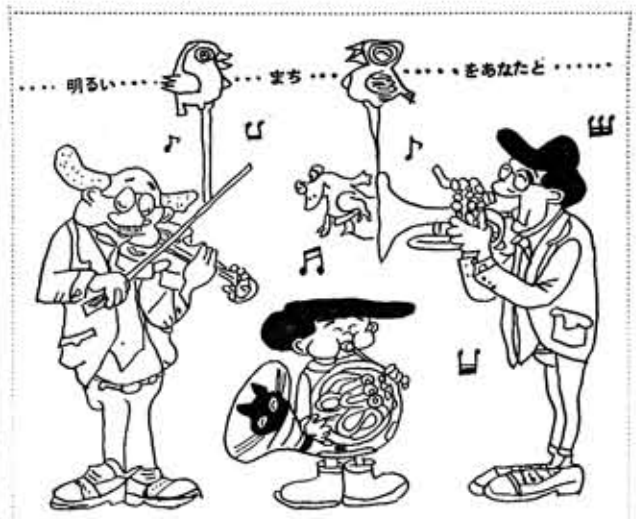
No. 163 昭和52年8月30日

◎発行 向日市役所（京都府向日市寺戸町中野20）
◎編集 広報広聴課
◎電話 075(931)1111

市民憲章 市民の花・木 特集

あなたとつくる市民憲章

4万8千市民の心のよりどころ



新しいまちづくり

私たちのまち向日市は、昭和四十七年十月一日に市制を施行、ことしで満五年になります。

市では、この市制施行五周年を記念して、過密化による多くの都市問題をかかえる中で、私たちの生活するまちを物心両面から美しく豊かにするために、市民一人ひとりが守るべき基本的な規範として、市民憲章を制定することになり、その文案を広く市民から募集することになりました。

市民憲章は、私たちが共に守っていく心のよりどころや、実践の指針を示したものであり、ここには〝私たちのまちをこのように暮らしよくしたい〟〝風格のあるまちにしたい〟〝市民はこうありたい〟といった市民の願いや誓いが盛り込まれます。

今こそ私たちは、自分の住んでいるまちを見直し、心のふれあいといった市民お互いの連帯の輪を広げ、ふるさと向日市の郷土愛を育て、市民一体となった新しいまちづくりを進めましょう。

ひとりでも多くご応募下さい。

市民憲章制定委員会 ―初会合を開く

向日市民憲章制定委員会の初会合が八月十八日、市役所会議室において開かれました。

委員会は、市民のなかから委嘱された十二名の委員からなり、市民から寄せられた作品を主体として、市民憲章を起草し、制定します。

◇ ◇ ◇

会合はまず、会長に嶋田啓一郎氏（同志社大教授）、副会長に中山仙三氏（自治功労者会会長）を選出した後さっそく、市民憲章制定の日程・公募の方法・内容などの具体的な審議にはいりました。

憲章文の内容については、▽地域性を出したもの▽自らのまちを自らよくするという意識を高めるもの▽新旧住民の心のふれあいをうたったもの▽市民の意志を反映した標語的なもの▽長岡京や西国街道など市に関係ある歴史性豊かなものを盛りこんだ方がよいのではないか…など、意見が続出していました。

委員会では今後、市民からの公募締切り後、ただちに起草委員会を開き、応募作品を主体に、原案の作成にとりかかる予定になっています。

◇ ◇ ◇

委員会の委員のみなさんは次のとおりです。（五十音順・（ ）内は出身団体名）

清水勝三（区長会会長） 嶋田啓一郎（大学教授） 寿岳章子（大学教授） 杉戸千代野（婦人会会長） 高橋静二（教育委員会委員長） 辻山一雄（商工連合会会長） 筧田知義（大学教授） 中山仙三（自治功労者会会長） 新木本真二（小学校育友会連絡協議会会長） 春田光夫（市議会議長） 森邦雄（小学校校長） 安田春造（市助役）

応募要領

市民憲章は、前文と五項目からなる簡単でわかりやすい文章を予定しています。応募作品は、でなく、前文とか憲章文の一項目だけでも結構です。

文案の作成にあたっては、まちの特性を盛り込んで、子どもからお年寄りまでに親しまれる憲章をお寄せ下さい。

▽応募資格 市内在住の方、または市内に通勤・通学している方

▽応募方法 下記の応募用紙に憲章文と住所・氏名・年齢を記入のうえ、郵送か持参して下さい。また市役所玄関ロビー、市民会館・各区事務所（物集女公民館・寺戸事務所・森本事務所・鶏冠井事務所

◇

札幌市民憲章

わたしたちは、時計台の鐘がなる札幌の市民です

一章 元気ではたらき、豊かなまちにしょう

二章 空も道路も草も木も、きれいなまちにしましょう

三章 きまりをよくまもり、住みよいまちにしましょう

四章 未来をつくる子どものしあわせなまちにしましょう

五章 世界とむすぶ高い文化のまちにしましょう

◇

宇治市民憲章

わたしたち宇治市民は、美しい自然と古い歴史に恵まれたすばらしい環境のもとに、明るく健康なまちづくりをめざし、市民の願いをこめたこの憲章を定めます。

一、明るいまちづくりにつとめましょう

一、自然と歴史をまもりましょう

一、すみよい環境をつくりましょう

一、よい習慣を育てましょう

一、ゆたかなくらしを築きましょう

（文中一部省略）

◇

▽応募期間 9月1日（木）～20日（火） 郵送は20日の消印有効

▽提出先・お問い合わせ 〒617 向日市寺戸町中野20番地 向日市役所企画課 電九三一―一一一一（内線二七七）

▽制定の日 昭和52年11月3日（文化の日）を予定

▽参加賞 応募者に記念品進呈

▽審議 市民憲章制定委員会において、応募作品を参考にし、審議のうえ憲章を決定します。

▽その他 著作権は市に帰属し、応募作品はお返ししません。

参考資料

向日市は、今もなお、千古の夢を秘めた長岡丘陵が、市の西部に、緑につつまれて横たわり、歴史の残した美しい風物の中で、緑と太陽に恵まれた文化の香り高い都市づくりをめざしています。

古くは、平安京以前の都、長岡京造営の中心地であった市内の中央部は、長岡京跡埋蔵文化財の宮域区域となっており、大極殿と小安殿跡は史跡公園となり、毎年11月11日には大極殿祭が行われています。

平安朝以来、時代の流れの中で、歴史上の人物がわが都市に足跡を残し、特に西国街道の主要な宿場町として栄ました。

明治22年に向日町が誕生して以来歴史と伝統に映えた王城の地として、乙訓地域における政治・経済・文化の中心的役割を占めてきました

近年、著しい経済成長の波に洗われ、地域開発が進み、急激な都市化と人口の急増をきたしました。ここにおいて、行政の水準の向上を図り文化都市への飛躍をめざして、昭和47年10月に市制の施行をみました。

現在、市にとっては、過密への対処と文化創造の所産を受けついだ調和のある都市づくりが課題となっています。

市のあらまし

キリトリセン

▼応募用紙▲

前文

一、（憲章文をご記入下さい）

一、

一、

一、

一、

住所	氏名	年齢